

# 道路

2012  
5

May ● Vol. 854

Road Engineering & Management Review

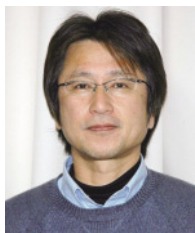


東京スカイツリーの展望（東京都墨田区）



特集 情報通信技術による道路利用者の利便性向上

# 地域いきいき:中国



## 世界ジオパークをめざして！

### ～日本風景街道「風待ち海道」の取組～

野辺 一寛 NOBE Kazuhiro

隠岐ジオパーク推進協議会事務局



隠岐諸島の位置

## はじめに

隠岐諸島は、島根半島の北40～80kmの日本海に点在する四つの有人島と180余りの無人島からなり、本州側から見て手前側にある三つの島を“島前”と呼び、後ろ側にある円形の島を“島後”と呼んでいます。

隠岐は聖武天皇の時代(724年)に遠流の地として定められてからは、小野篁、後鳥羽上皇、後醍醐天皇などが配流されました。

このような歴史的背景や、昭和38年に大山隠岐国立公園に指定された豊かな自然環境により隠岐は観光地として賑わってきましたが、離島という地理的条件による旅費の高さから、近年観光客数は年々減少しています。

## 不思議な隠岐を再発見

しかし、隠岐には大地が創造した雄大な風景と古代から続く人の営みが今なお残されています。

隠岐諸島はユーラシア大陸の縁辺であった時代、湖の底であった時代、海の底の時代とその形を変えながら今から約1万年前に現在のような離島となりました。

このため、隠岐諸島の成り立ちを知ることによって、日本列島や日本海の形成過程を知ることができます。大陸の縁辺であった時代から島へと移り変わった大地の成り立ちをこの小さな島で凝縮して体験できるのです。

また、隠岐を代表する黒曜石の産地は国内でも70カ所ほど知られていますが、矢じりなどの石器の材料として使用されたのは隠岐を含めて6カ所程しかなく、隠岐産の黒曜石が遙か3万年前から中国地方を中心として幅広く運ばれていたことが判明しています。

このことは、隠岐産の黒曜石が良質であったため古代の生活には欠かせない石であったことが想像されるとともに、古代から続く隠岐を中心とした人・文化交流の足跡も今日に伝えられる祭などに残されています。

不思議な隠岐の魅力として、植物の多様性がありま



隠岐黒曜石の道



隠岐国分寺に伝わる蓮華会舞

す。島の成り立ちと日本では珍しいアルカリ火山岩、そして対馬暖流の影響を受けることから、北方系・南方系・高山性・低山性・大陸系・氷河期時代の生き残りの植物が海岸の低地に共存し、北方系のモミに南方系の植物であるナゴランが着生して自生するなど、世界的にも希な自然環境を普通に観察することができるのです。

隠岐は今から約1万年前に現在のような離島となり、地理的変異や進化の過程において固有の生物も生まれましたが、他の離島に比べると固有種の数も少なく、近年まであまり注目されなかった島でした。しかし、他の離島より若い島であるが故に、この1万年の経過が生物にどの



ような変化を与えたのかなど、進化の過程を探るうえでも貴重な島であるといえます。

このように、隠岐は「大地の成り立ち」と「(大地の上に成り立つ)生態系」更には「(古代から続く)人の営み」を関連づけて体験できる不思議な島なのです。

#### 海岸で見られる植物たち



ナゴラン (南方)



シロウマアサツキ (氷河期)



ダルマガク (大陸)



オオイワカガミ (亜高山)

### 世界ジオパークをめざして

このように、隠岐には興味深い歴史や自然環境が今なお残されていて、近年のエコツアーやより専門性の高い修学的観光へ対応できる資源が豊富にあるのですが、そのことが知られていないし、島に住む私達も知らないためこれまで活用されていませんでした。

このような状況の中、公共事業のワークショップをきっかけとして、「隠岐を元気にしたい!」という人たちが集まり平成15年5月に官民協同のまちづくりグループ「風待ち海道倶楽部」が誕生しました。倶楽部の名前は、隠岐が北前船の風待ち港として栄えたことと、風待ちとは「出航に適した風を待つ」ということから、まちづくりの風を自分達で起こして、そして島外に向けて出航していきたいという想いを込めて命名しました。

また、隠岐が今後も継続して活性化していくためには、他の地域の成功事例をそのまま真似するのではなく、隠岐ならではの魅力を自分達で発掘し、まずは自分達が隠岐の価値を再認識して愛着を持たなければならないと考え、平成16年度より隠岐ならではの歴史・文化・自然を学ぶための隠岐学講座「風待ち海道エコツーリズム大学」を開催しています。

これまで、エコツーリズムによる地域振興・観光振興を目指して活動を行ってきましたが、更に広域的に、そ

して世界へ向けて出航するため、平成21年6月には島根県と隠岐四ヶ町村の行政と民間団体から構成される隠岐ジオパーク推進協議会を設立し、ユネスコが支援を行う世界ジオパーク認定をめざして活動を行っています。

こうした世界ジオパークを目指した活動は、大手企業でもあるイオングループとの提携という思いもしない大きな成果をもたらしてくれました。隠岐諸島の世界ジオパーク認定による環境保全・観光振興および地域の発展を目的とした活動趣旨と、「地域社会に貢献する」という基本理念をもつイオングループとが「環境保全」というテーマにおいてその理念が一致したことによって今回の提携が実現したのです。

### 誇りを持って隠岐を伝える

隠岐ジオパーク推進協議会では、隠岐地域の活性化を目的として世界ジオパーク認定を目指して活動を行っていますが、世界ジオパーク認定には『誇りを持って隠岐を伝えてほしい!』という願いも込められています。

隠岐には高校までしかなく、高校を卒業した子どもたちはその殆どが隠岐を離れ進学や就職をします。

しかし、世界的にも誇れる資源が身近にあるにもかかわらず、そのことを知る機会が少ないため子どもたちは隠岐を知らずに島を離れていくのです。本当の隠岐の魅力について知らないため『自信を持って隠岐について説明することができなかった』という声をこれまでもたくさん聞いてきましたし私もその一人でした。



中学校でのジオパーク学習会

世界的な認定地になることによって、隠岐の出身であることの誇りを持って隠岐を紹介できるようになってほしいと考えています。そうすれば、島を離れた子どもたちもいつかは隠岐に帰り、隠岐の活性化を担う人材となってくれるものと期待しています。

『誇りを持って隠岐を伝える』

世界ジオパーク認定へかける、私たちの願いです。